のとすぎの丘



日本赤十字豊田看護大学 The Japanese Red Cross Toyota College of Nursing

Vol.7

発行日/2008年5月



左業交

■ 新学長からのメッセージ

- 学長 渡邉 英夫
- 看護学科卒業式を迎えて/第1回卒業生 玉木貴及
 - 十人十色/第1回卒業生 芝田佳奈子 初めての卒業生/図書館長・教授 石黒土雄
- ■サークル活動
 - サークル紹介/稲川依里 ダンスを愛す/鈴木貴美子
 - 一球と共に成長/坂下淳子 園芸部の活動/近藤朱菜・松本尚子
- 平成19年度公開講座

「生活に笑いとユーモアを」を終えて 教授 奥村潤子・教授 杉浦美佐子 老人の心の病気(老人性うつ病、認知症) 教授 端谷 毅

- ★十字大会 赤十字大会を終えて 内山 信夫・藤村 真世
- ハワイ大学での看護学実習 第1回卒業生 鶴見 真弓
- 第2回中部ブロック夏季セミナー 前学部長 小西美智子
- 研究の窓、研究室紹介 手ごたえのあること、役立つこと 教授 中垣 紀子
- Academic Library 図書館の季節 春編 司書 中尾 明子

Information

- 平成20年度公開講座お知らせ
- 平成20年度入学試験 志願者状況
- 平成20年度の大学の動き

第一回卒業式の開催について

平成20年3月18日 (火) 13時から14時30分にかけて第一回卒業式が日本赤十字豊田看護大学講堂にて実施されました。卒業生、在校生をはじめとして、ご父兄、ご来賓、本学教職員が参加して荘厳な雰囲気の中でおこなわれました。卒業生(141名) たちは希望と期待を胸に新しい世界へ飛び立っていきました。



新学長からのメッセージ

学長 渡邉 英夫



この4月1日から第二代学長に就任いたしました。これから今まで以上に、この大学を元気あるものに全学を挙げて取り組みます。勿論、学生諸君も各々がその一員であります。

私の経歴を申し上げるのが、普通でしょうが、紙面の関係 もあり、今回は省略します。

学長の抱負は、平成20年3月18日の第一回学位授与式の式辞と平成20年4月4日の入学式の式辞に述べました。ここに全文を掲載します。これが諸君への新学長のメッセージであります。読んでください。

平成19年度学位記授与式 式辞

(平成20年3月18日 学長代理 渡邉英夫)

ことのほか厳しかったこの冬を耐えてきた裸木にも、急速に春の訪れが視られる今日この頃、本日、平成20年3月18日、日本赤十字豊田看護大学は第一回の学位記授与、卒業式を迎えることになりました。本学の歴史に残る記念日となりました。

日本赤十字学園理事長、大塚義治様のご出席をいただき、 そして、日本赤十字社愛知県支部長、鈴木礼治様はじめ多数 のご来賓のご臨席を賜りましたことに深甚なる感謝を申し上 げます。

平成16年4月、本学の設立・開学に多大なご理解・ご協力・ ご厚志を賜まわりました豊田市長、鈴木浩平様はじめ皆様に 卒業式のご案内を申し上げました所、多数のご臨席を賜りま した。ここに重ねて、お礼を申し上げます。

さて、141名の4年生が本学第一回生として卒業いたします。 卒業生諸君、卒業おめでとう。心からお祝いいたします。

本学は昭和16年4月に設立された、日本赤十字社愛知県支部乙種看護婦養成所を嚆矢として、時代と共に発展してまいりました。平成16年4月、日本赤十字社の看護師養成のための教育環境整備計画の一環として、本学は4年制大学として開学いたしました。諸君はその時、入学したのであります。学長は村地俊二先生です。

先生は昨年5月16日、病に倒れられ、現在も名古屋第一赤十字病院に入院中であります。幸い、徐々に回復されておいでであります。本日の学位記授与・卒業式にご出席が叶いませんでしたが、病床で学長訓示を綴られました。ここに村地俊二学長の訓示の全文をご披露させていただきます。

「私は今、嬉しさに溢れています。日本赤十字社、病院が、

その看護大学生を教育、錬磨する為に、豊田市の莫大なご援助を仰ぎ、壮麗な日本赤十字豊田看護大学が今、此所にスタートすることを、そして在席する卒後看護第一線の皆さんは、当地の「病傷者」と言われる方々を、いわゆる明日から、背に負いつつ、又真の自分の仲間としつつ、その業務を遂行されることを、本当に嬉しく存じ、且つ本日を長く銘記すべき日と考えます。

どうぞ4年間母校たる日本赤十字豊田看護大学において学んだ看護の尊い精神、高い原理、豊かな科学技術を、十分に駆使して、明日からの看護の各種の領域に活躍し、本学出身者に恥ずかしからぬ実績を上げてください。本学卒業者のご活躍を心から期待しつつ、各地での御健闘をお祈り申し上げます。 学長 村地俊二」

以上であります。

卒業生の諸君は憶えていることでしょうが、学長は平成16年4月第一回の入学式の時、Identityの確立、読書すること、そしてScienceとしての看護学とArtとしての看護技術への「探究心」「向学心」を奮い立てることを要請されました。私も全く同感であります。こうした事をどれだけ努力し、どれだけ会得しましたか。私は諸君が赤十字の原理を本学の理念とする大学で学んだ精神を軸に、そして本学を卒業したことに誇りを持ち、これからの人生に立ち向かい、立派に困難を乗り越えて行かれることを期待し、そして信じております。

学長代理の私から、一つの言葉を諸君に贈ります。それは「対話の精神」であります。仕事でも私生活でも、日本でも世界でも、平常心を持ち、向き合って人と話をすることが、すべての基本であります。之を忘れることなく、深く理解する所に、赤十字の原点があると言っても過言ではありません。人とよく話をする、さすれば見えてくるものがあります。実行をしてください。

さて、本日ここに諸君の晴れ姿があるのは、ご両親ご家族 友人、そして諸君の教育に携わった本学教職員,実習施設の 皆様のお陰であります。感謝の気持ちを忘れずに、将来に向 かって大きく羽ばたいてください。本学第一回生諸君の前途 を祝福します。おめでとう

之をもちまして、式辞とさせて頂きます。

平成20年度入学式 式辞

(平成20年4月4日 学長 渡邉英夫)

桜花爛漫、春うららのこのよき日、本日、日本赤十字豊田 看護大学は平成20年度入学式を迎えました。この第五回の入 学式を挙行するに当たり、日本赤十字学園常務理事浦田喜久 子様、そして日本赤十字社愛知県支部長鈴木礼治様はじめ多 数のご来賓のご臨席を賜りましたことに衷心より厚く感謝を 申し上げます。

本学は、昭和16年4月に設立されました日本赤十字社愛知 県支部乙種看護婦養成所を嚆矢とし、時代と共に高等看護学校、 看護短期大学と発展し、平成16年4月、日本赤十字社中部ブ ロックの看護教育の拠点校として開学されました。

本日、136名の新入学生,10名の編入学生が入学しました。 諸君、入学、おめでとう。心からお祝いいたします。日本赤 十字豊田看護大学は心から諸君を歓迎いたします。 今日の諸君の晴れ姿は、諸君の努力によるものですが、ご 両親ご家族をはじめ多くの方々のお陰であることを忘れない でください。

さて、本学は赤十字の、看護の、大学であります。 赤十字の大学とは、建学の精神が赤十字にあることであり ます。

1859年イタリア統一戦争の最中、ソルフェリーノの戦場に 遭遇したJean Henri Dunantは戦場の悲惨と彼の考えを、 1862年一冊の本Un souvenir de SOLFERINO(ソルフェリーノ の思い出)にして出版しました。当時のヨーロパでこの本は 広く読まれ、世論が盛り上がりました。これが赤十字の発端 であることはあまりにも有名であります。

ここで最も重要なことは、社会の階級、人の上下、将校兵士、敵味方に関係なく、人は人であり、自分と同等な人と受けとめ、自分自身が傷ついたと同様に感じ、強い精神的衝動から行動したJean Henri Dunantその人の感性と人間愛であります。ここに赤十字の原点があります。この赤十字の精神が本学の理念あることに些かの迷いもなく、誇りに思います。Jean henri Dunantに思いをはせ、その崇高な精神に学び、活かし、新しい時代に受け継いで行きましょう。

因みに、本学には1862年ジュネヴで発刊されたフランス語のJean Henri Dunantの Souvenir de SOLFERINO (ソルフェリノの思い出)の初版本があります。大変貴重な本であります。諸君は日本赤十字豊田看護大学の大学生になりました。この4年間、どうしますか、何をしたいですか。考えて下さい。学長から諸君に話します。看護学の学習、実習に夢中になって下さい。将来、立派な、優れた看護師になるための勉学であります。どのような学問であれ、どのようなスポーツにも始まりがあり、基本基礎が重要であります。堅牢な土台なくして、立派な家は建ちません。重ねて申し上げますが、何事をするにも、確固たる基礎があることが大切であります。大学の4年間はこの看護の基本基礎を勉学する時期であります。無為に過ごしてはなりません。

3年次編入生の大学生活は2年間でありますが、同様であります。

さて、大学は、大学を卒業してからのためにあると云えます。 諸君が生涯を立派に生きるために、最も必要であり、大切な ものは、品性であります。品性は知能にあるのではなく、感性、 知性にあります。大学は、この感性、知性を磨き、育むとこ ろであります。そのためには、色々なことを経験して下さい。 何かに真剣に、夢中になって下さい。豊かな読書をして下さい。 雑学でもよろしい。そして、楽しいときには共に笑い、悲し いときには共に慰め合い、共に刺激し合い、切磋琢磨するよ き友、生涯の友を作って下さい。こうしたことをするのは諸 君一人一人、自分自身のことであります。自分ですよ。自我 の形成に目覚めて下さい。

我々教職員、スッタフは諸君のこの日本赤十字豊田看護大学の4年間の大学生活が豊かな、実りあるものになるよう、 看護学の勉学を第一に、指導、協力、支援いたします。

諸君、入学、おめでとう。

これをもちまして、入学式の式辞といたします。

卒業式

看護学科卒業式を迎えて

第1回卒業生 玉木 貴及

日本赤十字豊田看護大学第一期生として、卒業を迎えます。 振り返れば、看護師へ一歩近づける喜びと、勉強や実習を頑 張っていけるだろうかという不安を胸に抱き入学したことを 思い出します。4年間の学校生活は講義や実習で毎日が忙しく、 あっという間でしたが、充実した日々であったと思います。

実習では、机の上では学べない看護をする喜びを実感することができました。どんなに辛く大変な事も、患者様からいただいた「ありがとう」の言葉や笑顔が何よりも嬉しく感じ、「また明日も頑張ろう」と思うことができました。また、失敗したり自分の勉強不足を目の当たりにし、落ち込み悔し涙を流したこともありました。時には辞めたいと思ったこともありました。そんな時、私を支えてくれたのは同じ夢を持った、同じ悩みを持つ、辛さをわかってくれる仲間でした。悩みを共有できる友達や先生方の大きな支えがあり、また患者様からのうれしい反応があったからこそ乗り越えることができたのだと思っています。実習を通して、考えていた以上に看護という仕事は奥が深く厳しい仕事なのだと実感させられました。

その一方で、嬉しかったこと、やりがい を感じたことも数多 くありました。

また、赤十字につ いての講義や災害救



護活動の参加など多くの赤十字活動に携わり、人々が持つどのような苦痛に対しても手を差し伸べ、ともにたたかうことが看護師として、人として大切であると感じました。これからも赤十字の基本理念を忘れず、様々な人と関わっていきたいです。

この日本赤十字豊田看護大学で出会った仲間は皆、温かい心を持っていて、お互いを支えていこうという気持ちのある人達ばかりでした。この学校で得た多くの看護の知識や技術、患者様との出会いや4年間共に過ごした仲間をこれからも自分の大きな支えにして、自分の目指す看護の道へ歩んでいきたいと思います。

十人十色

第1回卒業生 芝田佳奈子

編入してからの2年間は本当にあっという間に過ぎていきました。入学した頃は、看護師として就職した友達の話を聴くと、自分だけが取り残されているような気がして不安に感じることもありました。しかし今となっては、この2年間は私にとってとても有意義なものであったと感じています。赤十字ならではの講義や教養ゼミなど、大学だからこそ学べることもたくさんありましたが、私にとっては10人で過ごした貴重な時間も編入して得たことのひとつです。

私たちは、最初の編入生として10人で入学しました。それぞれ出身地もそれまでの経歴も編入した目的も違っていて、「十人十色」まさにこの言葉がぴったり合う、個性的なメンバーの集まりでした。実習のことや、将来の目標、看護師として勤務していた頃のことなどいろいろなことを話して、教えてもらいました。それぞれの考え方から学んだり、共感できたり、新たに気づくことなどもたくさんあり、毎日がとても充実していました。私は改めて看護職への魅力を感じるとともに、人と接していく仕事の難しさを感じました。看護は

提供する人の感性が問われるものだと感じるようになりました。

私は、これから社会に出 ていろいろなことを経験し、 看護師としても人としても



成長していきたいと思います。そして、その中から自分の本 当にやりたいと思うことを見つけ、そのことに対して誇りを 持てるように努力していきます。

たった2年間ですが、社会に出る前の大切な準備期間になりました。これからも、人との出会いを大切にし、ここで得たことを糧にがんばりたいと思います。

初めての卒業生

図書館長・教授 石黒 士雄

新入生が、最初に学ぶ生物の成り立ちには次のように記されている。 "生物の設計図はひも状のDNAの中に暗号として書かれています"。これは今ではもう常識であるが、これに引き続いて、このDNAは塩基が連なることによって出来上がっている。すなわち、始まりはたった一個の塩基である。しかも、この塩基の連なりは大変壊れやすいため、生物(細胞)はそれを修復する働きも持っている。

わが日本赤十字豊田看護大学はやっとまもなく4年が経過する新しい大学であるが、その前身をたどれば明治23年に看護婦養成所を赤十字社が設置したことに始まる100年(個)以

上の努力(塩基)の連なりの延長線上にあると例えることもできる。

いま大学構内は去年にはなかった良い空気に包まれている。 それは卒業を控えた4年生がいるという緊張感である。一年 生の元気の良いのももちろん素敵だけれど、4年生の落ち着 きのある態度が大変好ましい。知らないうちに成長するもの だなーと感心をする。2月末にある国家試験を経てさらに社 会人にふさわしい自覚を持つことになるだろう。

しかし、最近の傾向として社会人(病院勤務)になって早い時期にやめてしまう例が増えている。これは看護師に限ったことではないのだけれど、看護大学生は職業意識が高いはずなのにどうして?その理由にはいろいろのことが取り上げられ、論議されているが、大きな理由は"理想と現実のギャップ"であろう。

私が卒業した時と比べると、医療状況は大きく変化していて医療者がかつての様に感謝される対象ではなく、批難される側に立たされているようだ。この逆風に打ち勝って仕事を続けるには、仕事に情熱を持ち続けることができる職場環境が必須である。最近の医療環境は、かつてのように新入者にたいして余裕のある体制にない。むしろ、経験者と同じレベルの仕事量を求めるあるいは求めなければやっていけない環境にある。しかし、それだからこそ(後に続いてくれる)新卒者をバックアップすること。すなわち、一つ一つの塩基(看護師)を大事にする体制がないとDNA〔組織〕は壊れてしまう。ひいては医療システム自体が壊れる。

サークル活動

サークル紹介 稲川 依里

我が校のサークルは、限られた時間の中で楽しく力一杯活動しています。大学では高校の時とは違って、専門分野のことを中心に詳しく学びます。そのため、当たり前のことではありますが、頭の中はその専門分野のことに偏ってしまいがちになります。そんな大学生活の中で、サークルの時間は、自分の頭の中をほぐしてくれる存在として大変貴重なものになってきます。ある人は体を動かし汗をかいたり、またある人は趣味に没頭したりとストレスの発散は個々で変わってきますが、一律して言えることは、好きなことに取り組んでいる時の学生の顔は笑顔で満ち溢れているということです。

我が校のサークルは、フットサルやバスケットボール、バドミントンなどといった高校にもある慣れ親しんだものから、献血活動や奉仕団活動といった赤十字の特色が溢れているものまでバラエティに富んでいます。

サークルに所属している人は勉強にも手を抜かず、学業と サークルを両立している人が大半です。どちらも妥協せず最 後まで精一杯やり遂げる忍耐強さが、将来の看護師として必 要な忍耐力に繋がっていくのだと思います。

ダンスを愛す

ウヒップ Tanz部長 鈴木貴美子

こんにちは、ウヒップ Tanzです!まず、ウヒップ Tanzの名前の由来は、ウヒップはギリシャ語で「愛する」、Tanzは「ダンス」、つまり、「ダンスを愛す」という意味です。聞いた感じはなんだか意味がわからなくて、変な名前に感じるかも知れませんが、それだけダンスが大好きなメンバーで構成されているのです。

私たちは、主に週1回、火曜日に練習しています。練習場

所は警備室の前で、警備室のガラスを鏡代わりにしているので、 冬は寒くて大変です。一口にダンスと言ってもいろいろあり ますが、主にHIP-HOPとGirlsを中心に練習しています。でも、 この二つにこだわらず、いろんなジャンルに挑戦していきた いと思っています。

2007年10月21日クラブイベント「SHAKE!!758 HALLOWEEN」にウヒップ Tanzとして、初出演しました!! 練習期間は1ヶ月もなかったため、毎日授業後に残り、休みの日も集まって練習を重ねました。当日もぎりぎりまで練習して何とか完成し、無事に踊ることができました。なんと言ってもダンスの醍醐味は発表することです。やはり、『見てもらって何ば、踊って何ぼ』の世界ですから。



舞台で踊る楽しさを一度味わったら、もうやめることができません!!どんなにつらい練習があっても、この達成感を感じるとまたがんばろうという気持ちになります。ダンスは練習すればするほど上達していくのが目に見え、体で感じることができるので飽きることがなく、何時間でも踊ることができます。そして、このサークルを立ち上げなかったら知り合うことのできなかった仲間達とダンスに引き寄せられ、ダンスでつながることができたことがすばらしいと思います。

一球と共に成長

バドミントン部 部長 坂下 淳子

こんにちは。バドミントン部です。私たちバドミントン部は、顧問の中島先生をはじめ、部員2年生7人、1年生3人の計10人(ほとんどが初心者)で活動しています。活動日時は、毎週金曜日(第3金曜日以外)の5限終了後に行っています。しかし、第3金曜日以外でも、大学の都合上体育館が使用できないことや2年生のグループワークがあるため、あまり活動できていないのが現状です。そのような限られた時間の中

でも、私たちは基礎 打ちやノック等、で きる限りの練習をし ています。

また、少人数の部ではありますが、私たちは、毎回の練習で笑いのある楽しい



活動しています。しかし楽しいだけでなく、練習中はシャトルをとろうとする意志を強く持ち、メリハリをきちんとつけています。そのため、ときにはどうして打てないのか深く悩み、相談する姿もあり、一人ひとりが積極的に取り組む姿もみられます。この練習と3年生の先輩方にいただいた指導のおかげで、今までのラリーの続かない試合から、ラリーの続く試合ができるようになりました。特に最近では、経験者から見てもハラハラ、ドキドキするような試合になってきているので目が離せません。もちろん経験者同士の試合とはレベルが違いますが、一人ひとりの成長や個性をみることのできる、それ以上に意味のあるものだと思います。

私たちは今まで、個人戦には数名出場したことはありますが、 全員参加や団体戦に出たことはありませんでした。しかし現在、 社会人中心の大会ではあるのですが、豊田市市民大会の団体 戦に参加することを計画しています。また今後は、社会人や 実業団の練習に参加している部員も数名いるので、学外でも 活動していけたらと思っています。

園芸部の活動

園芸部員 近藤朱菜 松本尚子



園芸部は昨年から新しくできたばかりのサークルです。園芸活動によって、学内の自然・環境を守り、美化に務め活動を通じて交流することを目的としてつくられました。

主な活動内容は、その名の通り植物を育てることです。植物は手入れと水遣りが大切なので、1年生から3年生まで当番制で朝夕に水遣りを行っています。

前期の活動では、春にコスモス・あさがお・サルビアなどの花を種から、プチトマトやナスなどの野菜を苗から育てました。花はある程度成長したら、ポットからプランターに移しかえる作業を行いました。プランターに移しきれなかった苗は希望者に配り、野菜は熟れて食べごろになると、サークルメンバーで持ち帰りました。持ち帰って調理した野菜はとても美味しかったです。花も、最終的にはほとんどが綺麗な花を咲かせることに成功しました。

後期からは、前期に比べて数は少ないのですが、新しく苗から育て始めた花の水遣りを中心に行っています。2、3年生が実習等で忙しいため、主に1年生が中心に行っています。

来年度はもっと自分たちの好きな花をたくさん育て、綺麗な花を咲かせていきたいと思っています。野菜もキュウリやピーマン等、前回育てた野菜以外にも新しく育てたいと思っています。収穫量があまり多くなかったので、今年度よりさらに多くの野菜が収穫できるようにしたいと考えています。他にも、何かいいなと思うものがあったらできる範囲で挑戦します。新しく育てようと考えているのはアロエです。現在は花の数も少なく活動範囲も狭いので、学内に花を増やし活動範囲を広げていきたいと願っています。

公 崩 講 座

「生活に笑いとユーモアを」を 終えて 教授 奥村潤子 教授 杉浦美佐子

「笑う門には福来る」と言われていますが、現在は「笑う門には健康来る」とも言われています。この公開講座では、 笑いが健康に及ぼす影響を中心に笑いやユーモアの大切さを 考えてみました。



大笑いをすると交感神経が優位の状態となり血圧の上昇、心拍数の増加、発汗促進などがあります。しかし、笑い終わると副交感神経が優位の状態となり血圧の下降、心拍数の減少、発汗抑制となります。つまり、適度な運動と同じ効果があります。ストレスの解消ができるわけです。この他、笑いにより難病(膠原病・心筋梗塞)を克服したノーマン・カズンズ氏の紹介や笑いによるナチュラルキラー細胞の活性化、関節リウマチ患者の落語鑑賞による症状の改善、血糖値の上昇の抑制などの実例も紹介しました。

笑いは「体の健康」によく、ユーモアは「こころの健康」に必要です。アルフォン・デーケン教授は、ユーモアとは「にもかかわらず笑うこと」と言っていらっしゃいます。辛いことや悲しいことがあっても「にもかかわらず笑う」ことです。それも相手への思いやりとして、笑顔で接する態度こそ成熟した真のユーモアであると。ユーモアは柔軟な発想を可能にする力もあります。ポジティブな感情、つまり明るい感情が愉快な気持ちを喚起します。

毎日、笑う習慣をつけることが、病気になりにくく若々しい生活を送れることにつながります。参加者一同で大笑いの練習をして、公開講座を終わりました。

老人の心の病気(老人性うつ病、 認知症)

教授 端谷 毅

平成19年11月24日(土) に「老人の心の病気」と題して、老 人性のうつ病と認知症について解説しました。共に多い病気 であり、最近はテレビなどでの特集が組まれることから、住 民の関心も高く53名の方が参加されました。

うつ病に関しては、うつ状態だけではなく、食欲不振や不



眠などからも気が付かれるなどの症状について、特に睡眠と の関係が深く、悩みやストレスにより、睡眠が障害されると、 発症しやすいことを説明しました。また治療についても、最 も休養が必要であること、SSRIなどの効果的な薬が開発 されていることを紹介しました。特に睡眠は、単に寝つきだ けの問題ではなく、夢見などの睡眠中の様子および、朝起き てからの熟睡感の3点が重要であることを強調し、さらに現 在の睡眠薬などの安全性も説明し、睡眠の改善が、うつ病を 予防することを解説しました。

認知症に関しては、主要症状(記憶障害、見当識障害、判 断力の低下)と、実際に生活上問題となる周辺症状(攻撃的 行動、徘徊のため、夜間せん妄、介護への抵抗、異食・過食 など) などの症状、およびバリデーションなどの対応方法、 アリセプトや抑肝散 (漢方薬) の有効性などの治療方法も紹 介しています。

いずれの病気に対しても治療方法があり、早期発見・早期 治療が重要です。

しかし今回はうつと認知症の2つの病気についての話であ ったため、受講生にとっては、実際の生活でのもっと詳しい 話を求めていた方もいらっしゃるので、今後はテーマを絞っ て開催することも必要と考えています。

赤十字大会を終えて

内山 信夫

赤十字大会では、文芸センターで日本赤十字豊田看護大学 の学生代表として、「あこがれの赤十字」を合唱させていた だきました。合唱の練習は本番までにも、講義が終わった後 に数回行われ、はじめは小さかった声も回を重ねるごとに大 きくなり、本番前に現地で行った練習では完成度の高い合唱 をすることができました。

式には全員がナース服を着用して出席しました。他の来賓 の方々がスーツで出席されている中、ナース服の集団はやや 異様な光景だったように思いますが、式の最後に名誉副総裁 である秋篠宮妃殿下、ならびに報道陣、出席者の面々の前で 立派に歌い上げることができました。

忙しい大学生活の中での練習は大変であったし、式本番で はとても緊張しましたが、2年に1度行われる赤十字大会に 参加し、そこで「あこがれの赤十字」をみんなで合唱できた ことはとてもよい経験になったと思います。

赤十字大会を終えて

藤村 真世

赤十字大会当日, 大学では名誉副総裁である紀子さまをお 迎えするグループと、実習室で演習を行うグループの二つに 分かれました。私は演習を行うグループになりました。実習 室では三人一組にそれぞれが分かれて行いました。患者、実 施者、観察者に分かれ、私は実施者でした。紀子さまが来ら れる前から私はかなり緊張していたと思います。紀子さまは、 私たち学生ひとり一人に声をかけてくださいました。私たち 二年生は夏に病院での実習があったので、その時の様子や学 びについて、そしてこの日実施している演習内容について紀 子さまはお尋ねになりました。緊張して一杯一杯になってい

る私に紀子さまは優しくほほえみかけてくださいました。私 たちが紀子さまとお話した時間はとても短いものでしたが. 私たち学生が紀子さまと過ごした時間はとても貴重なものと なったと思います。今日の学びを励みとして、これからも頑 張っていきたいと思います。



ハワイ大学での看護学実習

第1回卒業生 鶴見 真弓

ハワイは青い空と青い海が印象的でした。日本では見たこ とがないような風景が広がっており、今まで海外に出たこと がなかった私にとってその光景は衝撃でした。

実習はスケジュールがびっしりで空き時間はほとんどなか ったのですが、充実した一週間を過ごせました。そう思えた のは、ハワイの文化を十分に体感でき、日本との違いを学ぶ ことができたからです。また、実習に参加した仲間と共に学 ぶことで、それぞれが感じ学んだことを共有でき、学びを深 めることができました。毎日が忙しかったことで実習とオフ のメリハリがつき、オフ時間は遊んだこともいい思い出にな っています。ハワイ大学で講義を受け、ハワイの特性を知っ

たうえで、ハワイの土地柄を実感するために観光スポットに 出かけたことも、実習の一環だったのではないかと今は考え

ハワイで学んだことの中で一番印象に残っているのは、 看護職のレベルの 高さです。一人ひ とりの看護職が、 自己の責任の下に



質の高い看護を提供していました。アメリカは個人主義国家で、 些細なことでも訴訟問題に発展しやすいため、看護職は確か な技術を持って対応する必要があることも看護師の高さに関 係しているとのことです。

今回、アメリカで看護職は最も信頼されている医療専門職員であることを学び、その根拠は質の高いケアの提供が根底にあるのだと理解できました。対象者との信頼関係の構築には確かな技術が必要であることを再確認し、ますます勉学に励まなくてはという思いを強くしました。

今回の国際保健実習ではハワイの文化に触れることで、日本の文化の特性を客観的に見るよい機会になりました。世界は一つの枠にとらわれているのではないことを改めて認識し、広い視点を持つよいきっかけになった実習でした。

第2回中部ブロック看護セミナー

前学部長 小西美智子教授

日本赤十字社中部ブロックには赤十字病院が20施設あります。

その病院の看護職と本学教員が共同で、病院で行われている 看護ケアについて一緒に考える場を持ち、看護実践に向上で きるように看護セミナーを平成18年度から開催しています。

看護職として入院患者さんが疾病を回復・治癒し再発や悪化を予防できるように看護ケアを行い、快適な療養生活を支援するためには、日々行っている看護ケアを科学的に研究的に分析し、看護ケアを工夫し改善をしていくことが求められています。

そこで今年度は平成19年8月20日-21日の2日間、中部ブロックの赤十字病院に在職する看護職35名と本学教員34名の計69名で「看護実践活動を推進するための看護研究の進め方」というテーマに取り組みました。

最初に本学西川浩昭教授から看護職がやや苦手とする統計 手法を使って研究する量的研究方法について、約2時間「看 護研究に用いる統計分析手法の入門」と題して、データの収 集方法から分析・検定方法について講演を受けました。その 後第2日目の午後まで、統計手法を使って研究する量的研究 グループが4つ、対象者の動作や言語を分析する質的研究グ ループが2つ、対象者の療養支援と疾病の経過を分析する事 例研究グループが2つの、計8グループに分かれて文献検索し 意見交換しそれぞれの課題を学習しました。

参加した者からは、「苦手と思っていた研究に興味と意義を見いだした」、「統計学は苦手と思っていたが、講義を聴いて頭の整理ができた」、「アンケート(質問紙)の作成で悩んでいたことが解決できた」、「研究計画書の必要性とその意義が理解できた」等の感想をいただき、主催者としては目的を達成できたと考えています。

研究の窓、研究室紹介 手ごたえのあること、役立つこと

小児看護学教授 中垣 紀子

小児看護学領域は、神道那実助教、鈴木弘美助手、大矢み つ子助手と私の4名です。私たちは、小児看護学に関連する ことをそれぞれに、または、いっしょに取り組んでいます。 どんなことをしているかというと、まず、教育に関連した内 容では、昨年、DVD「子どもの病気と看護技術」全3巻(医 学映像教育センター)を作成(写真左)、現在は、鈴木が「小 児看護技術実用マニュアル」を執筆中(こどもケア4月号に 掲載予定)、神道が「発達段階からみた小児看護過程の展開| を執筆中(医学書院より発刊予定)です。これらの内容は、 学生の実習に繋げたいと思っています。子どもたちや家族に 関しては、今、まさに問題を抱えて困っている障がいを持っ ている子どもたちの母親とともに、豊田市の助成を受けて、 実態調査をし、「障害をもつ子どもの学校生活の現状に関す る調査報告」(写真右)にまとめました。この報告書をもとに、 豊田市教育委員会と愛知県教育委員会にそれぞれ話し合いを する機会を持ってもらいました。その手ごたえを期待したい と思っています。また、特別支援学校(養護学校)の医療的 ケアについても、関わっています。先日、「医療的ケア実践 セミナー2007 in 愛知」が、あいち健康プラザで実施されま

した。私たち教員3名は、2日間、実技研修サポートとして、本学学生10名は、ボランテイアとして参加しました。学生といっしょにセミナーを成功させることができました。私の担当で卒業研究をした学生も国試を前にしてですが、「昨日、お母さんたちと学校に行ってきました」と。家族の気持に寄り添うことができるようになった学生の成長が嬉しく感じた瞬間でした。卒業後も親の会の活動に参加するそうです。日赤関連では、史料「波瀾児童関係日誌」の翻刻化に取り組んでいます。神道と私は、プロジェクト「小児がん経験者の長期フォローアップ」の活動に加わっています。私たち小児領域の教員の研究活動等を概観してみますと、"手ごたえのあること""役立つこと"をしようとしている感があります。いささか忙しいのですが、これからも研究・教育・実践が調和できるような活動を続けていきたいと思っています。



Academic Library 図書館の季節 春編

司書 中尾 明子

「看護について知りたいのですが、どんな本を読めばいい ですか? |

毎春、図書館カウンターで聞かれる新入生の初々しい質問です。そんなとき、案内するのが「看護雑著」と分類される書架です。当館では「N04.9」という請求記号が付されています。「N」とは「Nursing」の略で「エヌゼロヨンテンキュー」と読みます。本学入学前に図書館をよく利用している人でも、「N」と付された分類は初めなので「ナンバー4.9」と読み違えるのは、当然のことと言えます。

「看護雑著」とは看護に関するエッセイや、看護論よりも 軽い読み物が集められています。看護職の著者が多いのはも ちろん、医師やルポライターの著作物もあります。看護や医 療の現場をことさら面白おかしく書かれたものもありますが、 どの本にも共通しているのは、患者さんへの温かい眼差し、 思いです。肩肘を張らずに読めるけれど、看護の本質に触れ られていることが、図書館員が新入生に勧める理由です。

この春には、本学初めての卒業生を送りました。現場に配置されて、詳しい医療情報を再確認する必要を感じられたとき、母校の図書館を是非利用してください。当館は地域の医療関係者に既に利用されていますが、卒業生には「お帰りなさい、ようこそ」の気持ちで迎えたいと思っています。そして、もし「感情労働」としての看護に疲れたときは、「看護雑著」を読み返してほしいと思います。看護職を志そうと思った初

心を思い出してほしいのです。 直接会ったことがなくても、 看護職の先輩たちのエール に出会うことができます。

図書館の春は、新入生と 卒業生を迎える春です。



Information

平成20年度公開講座のお知らせ

講座名・担当	日時・場所	內 容	人数
①第一回 心の健康シリーズ 担当領域:専門基礎 担当者:端谷 毅教授	平成20年6月28日(土) 10:00~12:00 本学内	発達障害(広汎性発達障害) コミュニケーション能力の発達の遅れが、アスペルガーなどの広範性発達障害の基本症状です。心の理論からコミュニケーション障害の本質と対応を考えましょう。	50名程度
②第二回 心の健康シリーズ 担当領域:専門基礎 担当者:端谷 毅教授	平成20年9月27日(土) 10:00~12:00 本学内	パーソナリティ障害 性格は遺伝と各時代(乳児期・幼児期。児童期・思春期・青年期)での親子関係も含めた環境や出来事で形成されます。そしてその性格のせいで生きづらい人生を送らなければいけない人々が、パーソナリティ障害と言われます。本人が自覚したり周りが理解することでとても生きやすくなります。	50名程度

平成20年度 入学試験結果

入試区分		募集人員	志願者	合格者
— 船	고	55	340	128
高等学校長推薦		30	39	31
日本赤十字社中部 各県支部長推薦		30	37	37
社会人特別選抜		5	2	1
숨 :	†	120	418	197

編集後記

季節とともに教職員は移動して、新しい体制で大学が動き出します。本号では、少しでもこれら動きの一端をお伝えしたいと編集してまいりました。

看護職として成長した卒業生を送り出し、新たに学び始める新入生を迎えました。「4月から年度は始まり3月を終えて年度を締めくくるといった大学として当然の動きではあるけれど、そこに居る人の思いや活動はやはりその時その人によって異なるはずです」。今後も皆様から、その思いや活動の一端を「いとすぎの丘」で紹介いただきたいと思います。

なお、vol.1~vol.6までは初代学長が考えられた、糸杉の木をモチーフにしたデザインをシンボルマークにしておりましたが、今号から学校法人日本赤十字学園のシンボルマークである、ランプをモチーフにしたデザインを使用することとなりましたのでお知らせします。

平成20年度 大学の動き

月	行事予定	月	行事予定	
4月	入学式	8月	前期講義終了	
	オリエンテーション		前期補講·追再試験期間	
	新入生合宿研修		夏季休業開始	
	健康診断		オープンキャンパス(23日)	
	前期講義開始			
5月	大学祭•体育祭	9月	夏季休業終了	
7月	単位認定試験			
	オープンキャンパス(26日)			

いとすぎの丘 Volu

発行日/2008年5月

編集・発行/日本赤十字豊田看護大学 広報・公開講座委員会、企画課

∓4

〒471-8565 豊田市白山町七曲12-33 TEL 0565-36-5228 FAX 0565-37-8558 E-Mail info@rctoyota.ac.jp H P http://www.rctoyota.ac.jp